

システム名	MSP
ソフトウェア 略名	CP－PROGRAM
適用 バージョンレベル	V20L30
製品コード	E9311301-2030-1

ソフトウェア説明書

OS^{IV}/MSP
SIMPLIA/CP－PROGRAM V20

ま え が き

本ソフトウェア説明書は、

OSIV/MSP SIMPLIA/CP-PROGRAM V20L30

について説明したものです。ソフトウェアの使用に先立ち、本書をご一読ください。

なお、本ソフトウェアは、OSIV/F4 MSP(E20)、OSIV/MSPスケーラブルSCMPシステム環境においても稼動します。したがって、それぞれのインストレーションにつきましても、本書をご利用下さい。

本ソフトウェアのインストレーションを実施するにあたり、その2週間前までに当社技術員から本ソフトウェアの最新保守情報をお問い合わせのうえ、インストレーションを実施頂くようお願い致します。また、ご不明な点は当社の技術員にお問い合わせください。

なお、本書で用いる記号の意味は次の通りです。

参照⇒ 本書中の参照箇所を示しています。

2009年 2月

株式会社両備システムソリューションズ

富士通株式会社

目 次

1 . 機能概要	5
2 . 構成プログラム	6
3 . 適用マニュアル	6
4 . 新機能	6
5 . 移行上の注意	6
6 . 制限事項	7
7 . ソフトウェア組合せ条件	9
8 . 入出力装置	9
9 . 提供媒体形式と内容	11
10 . D A S D所要量	12
11 . インストレーションの手引 	15
12 . 使用上の注意事項	29
13 . 稼働確認	30
14 . 日本語名標辞書の作成方法	48
15 . 日本語名標辞書データ変換プログラム	50
16 . ユーザ出口ルーチン雛形プログラム	54
17 . プログラム修正事項	55
付録1. ネットワークプリンタへの出力について	56

1. 機能概要

このソフトウェアは以下の機能を備えている。

OSⅣ/MSP SIMPLIA/CP-PROGRAM (SIMple development & maintenance support Program Libraries for Application system / CaPly-f document facility of PROGRAM) は、COBOLソースプログラム中の情報から各種ドキュメントを出力するツールである。
SIMPLIA/CP-PROGRAM (以下CP-PROGRAMと呼ぶ) は以下の機能を持つ。

1.1 ドキュメント出力機能

1.1.1 プログラム概要出力機能

ソースライブラリ・コピーライブラリ又はプログラム概要保存ファイルを入力として、ファイルの入出力構成、機能説明及び補助シートとしてファイル情報、WORK情報、LINKAGE 情報、プログラムの呼び出し情報を出力できる。

1.1.2 セクション構造図出力機能

ソースライブラリ・コピーライブラリ又はセクション構造図保存ファイルを入力として、プログラム内のセクション構造を出力できる。

1.1.3 YACⅡ仕様書出力機能

ソースライブラリ・コピーライブラリ又はYACⅡ仕様書保存ファイルを入力として、プログラム内容をYAC形式で出力できる。

1.1.4 COBOL仕様書出力機能

ソースライブラリ・コピーライブラリ又はCOBOL仕様書保存ファイルを入力として、プログラム内容をCOBOL形式で出力できる。

1.1.5 コンパイルリスト出力機能

ソースライブラリ・コピーライブラリ又はコンパイルリスト保存ファイルを入力として、プログラム内容をコンパイルリスト形式で出力できる。

1.1.6 ソースリスト出力機能

ソースライブラリ又はソースリスト保存ファイルを入力として、プログラム内容を出力できる。

1.1.7 日付チェックリスト出力機能

ソースライブラリの最新情報が、COBOLプログラム設計書として出力される各ドキュメントに反映されているか否かを日付確認情報として出力できる。

2. 構成プログラム

このソフトウェアは、表2.1 に示すプログラムから構成されている。

表2.1 構成プログラム

項番	分類	プログラム名	バージョン・レベル	備考
1	SIMPLIA/ CP-PROGRAM	J S M J H 0 0 0	V 2 0 L 3 0	メインプログラム
2	セットアップ用 プログラム	J S M J H A 0 0	V 2 0 L 3 0	管理ファイルのセットアップ用プログラム
		J S M J H B 0 0	V 2 0 L 3 0	各ドキュメント保存ファイルのセットアップ用プログラム

3. 適用マニュアル

このソフトウェアに適用されるマニュアルは表3.1 に示すとおりである。

表3.1 適用マニュアル

項番	マニュアル名称	マニュアルコード	備考
1	OSIV SIMPLIA/CP-PROGRAM解説書	R C 9 4 0 1 - 3	P D F ファイル提供

4. 新機能

このソフトウェアでは、以前のバージョン・レベルに対して次のような改良が行われている。

4.1 V20L20で行われた改良点

OSIV/MSPスケーラブルSCMPシステムにおけるマルチクラスタ運用を可能となった。

4.2 V20L30で行われた改良点

ネットワークプリンタでも出力できるよう、プログラム概要で使用している追加文字コードを変更した。

5. 移行上の注意

5.1 V20L20からの移行

そのまま流用可能な資産

- － ドキュメント出力用ジョブ制御文
- － チェックリスト出力用ジョブ制御文
- － フォームオーバーレイソース
- － フォームオーバーレイ
- － 保存ファイル（DD名：JSMJHP01～9）
- － 管理ファイル（DD名：JSMJHKNR）
- － 日本語項目変換辞書（DD名：JIMLIB）
- － 日本語名標辞書（DD名：JAPLIB，PDF）

6. 制限事項

CP-PROGRAMの制限事項のうち、主要なものを表6.1 に示す。制限事項の詳細は、適用マニュアルを参照されたい。

表6.1 制限事項（続く）

項番	制 限 事 項	備考（代行方法，その他）	解除予定
1	本ソフトウェアを認定ライブラリにインストールする又はインストールしたロードモジュールライブラリを認定ライブラリとして使用することはできない。	ジョブ制御文のJOB LIB又はSTEP LIB DD文に本ソフトウェアを格納しているロードモジュールライブラリを指定して実行する。	な し
2	入力可能なCOBOL ソースライブラリ及びCOBOL コピーライブラリのライブラリ編成は、GEM 又は区分編成でなければならない。また、GEM の連結は不可である。		な し
3	コピーライブラリが連結されていて同一メンバが存在する場合は、先頭のライブラリのメンバがドキュメントの出力対象となる。		な し
4	入力できる言語は、COBOL85 の言語仕様で記述された翻訳エラー（ワーニングも含む）のないCOBOL プログラムであり、翻訳エラーのあるソースプログラムを入力とした場合、出力される情報の内容については保証されない	翻訳エラーを修正し、再度実行する。	未 定
5	手続き部の手続き部分の最初に見出し（セクション）が記述されていないプログラムを入力とした場合、セクション構造図が出力されない。	入力プログラムに手続き部の見出しを記述して再度実行する。	未 定
6	セクション構造図で出力可能な階層は、10階層までである。出力可能な階層を超える場合は、最後のボックスの後に野線が出力され、以降は出力されない。		未 定
7	COPY命令によるコピー句の展開は8階層まで行われる。8階層目のコピー句にCOPY命令がある場合、そのコピー句は無視される。		未 定
8	コピー句の記述がCOPY命令により完結していない場合の結果は保証されない。		未 定
9	解析に必要な一連の記述がCOPY命令によって分断されている場合の結果は保証されない。		未 定
10	プログラム概要書では報告書節（REPORT SECTION）内の記述は無視する。		未 定
11	プログラム概要書ではEXTERNAL句はサポートしない。		未 定

表6.1 制限事項（続き）

項番	制 限 事 項	備考（代行方法，その他）	解除予定
1 2	INCLUDE 命令はCOPY命令と同等の扱いとする。 注) INCLUDE命令とは COBOL記述の命令であり GEMの制御文の- INCLUDEのことではない。		な し
1 3	OPEN命令の記述されていないファイルはプログラムダイアグラムに出力されない		未 定
1 4	置換命令は，REPLACING 命令，DISJOINING命令，JOINING 命令をサポートしており，置換命令の仕様は以下になる。 REPLACING { ==仮原文－ 1 == 一意名－ 1 定数－ 1 語－ 1 BY { ==仮原文－ 2 == 一意名－ 2 定数－ 2 語－ 2 DISJOINING 語－ 1 JOINING 語－ 2 ①仮原文－ 1 は()のみとする．その他は62バイトまでで，スペース，クォーテーションマーク，ピリオド及びシャープ' #'の含まれていない文字列である． ②仮原文－ 2，一意名－ 2，定数－ 2又は語－ 2の文字列が予約語の場合，置換は行われない。		未 定

7. ソフトウェア組合せ条件

このソフトウェアを使用するときに必要な関連ソフトウェアは以下のとおりである。

なお、OSIV/MSPを表5.1，OSIV/F4 MSP E20 以降を表5.2 に示す。

表7.1 必須関連ソフトウェア (OSIV/MSP)

必要ソフトウェア名	適用V / L	必要条件		備 考
		必 須	任 意	
A F II	V10L10以降			
COBOL 85	V12L10以降			
COBOL 85 DF	V12L20以降			SQL文，翻訳指示文機能を持つCOBOLプログラムソースを入力とする場合はV12L30以降が必要
ソートマージ	V10L30以降			
ADJUST	V11L10以降			
JEF基本辞書	V01L92以降			
GEM	V10L30以降			ソースライブラリ又はコピーライブラリがGEMの場合
PFD	V10L30以降			区分編成のソースライブラリから日付指定でドキュメントを出力する場合でTSSにおけるプログラム開発支援がPFDで作成されている場合
AP / DF	V10L40以降			区分編成のソースライブラリから日付指定でドキュメントを出力する場合でTSSにおけるプログラム開発支援がAP/DFで作成されている場合

〔補足事項〕

VSAMは、AF II V10L10に統合されている。

表7.2 必須関連ソフトウェア (OSIV/F4 MSP E20 以降)

必要ソフトウェア名	適用V / L	必要条件		備 考
		必 須	任 意	
システム制御プログラム	E20以降			
COBOL 85	V12L10以降			
COBOL 85 DF	V12L20以降			SQL文，翻訳指示文機能を持つCOBOLプログラムソースを入力とする場合はV12L30以降が必要
ソートマージ	V10L30以降			
ADJUST	V10L50以降			
JEF基本辞書	V01L91以降			
GEM	V10L30以降			ソースライブラリ又はコピーライブラリがGEMの場合
PFD	V10L30以降			区分編成のJCLライブラリから日付指定でドキュメントを出力する場合でTSSにおけるプログラム開発支援がPFDで作成されている場合
AP / DF	V10L40以降			区分編成のソースライブラリから日付指定でドキュメントを出力する場合でTSSにおけるプログラム開発支援がAP/DFで作成されている場合

8. 入出力装置

本ソフトウェアの各ドキュメントの出力が可能なプリンタ装置について説明する。

本ソフトウェアの帳票は，日本語ラインプリンタ，およびカット紙ラインプリンタで出力することができる。ただし，フォームオーバーレイが出力でき，7が全角文字が出力できるプリンタであること。

表8.1 適用プリンタ装置

プリンタ装置	プリンタ機種
日本語 ラインプリンタ	F6700E, F6700D, F6712E, F6715E, F6718C, F6718D
カット紙 ラインプリンタ	F6722D, F6724C, F6724D

9. 提供媒体形式と内容

このソフトウェアで提供される磁気テープの内容は、表9.1 と表9.2 に示すとおりである。

表9.1 提供媒体形式

種 別	記録密度 (BPI)	ラベル形式	ボリューム 通し番号	データセット数	巻 数
D L B 0 1	6 2 5 0	S L	C P P R O G	8	1

表9.2 提供媒体内容

格納 番号	データセット名	内 容
1	CPPGM.JCL	インストレーションツール（インストール用制御文，実行用ジョブ制御文，稼働確認用COBOLソースプログラム，稼働確認用テストコピー句，ユーザ出力ルーチン雛形プログラムソース）のJSECOPY のアンロード版
2	CPPGM.LOAD	ロードモジュールのJSECOPY のアンロード版
3	CPPGM.IMG	イメージライブラリのJSECOPY のアンロード版
4	CPPGM.NDICPS	稼働確認用日本語名標辞書のJSDGENERのアンロード版
5	CPPGM.OVL	フォームオーバーレイソースJSECOPY のアンロード版
6	CPPGM.WKLOAD	日本語名標辞書データ変換プログラムのロードモジュールのJSECOPY アンロード版
7	CPPGM.WKJCL	日本語名標辞書データ変換プログラムの実行用ジョブ制御文のJSDGENERのアンロード版
8	CPPGM.NWSALIB	ネットワークプリンタ用追加文字セット（ダウンロード用）のJSECOPYのアンロード版（必須関連ソフトウェアCOBOL85 DFで提供されている追加文字セットを含む）

10. DASD所要量

このソフトウェアのインストールを完了したときのDASD所要量の見積りを表10.1 に示す。

表10.1 DASD所要量(続く)

単位は各々次のとおり，
レコード長，ブロック長：バイト
ディレクトリ：ブロック
DASD所要量：トラック

項番	ファイル名		ファイル形式 レコード長 ブロック長	算 出 式			備 考
	標準名	変更可否		バイト	DASD所要量		
					F 6 4 2 1	F 6 4 2 5	
1	CPPGM. JCL	可	区分編成 FB 80 3120	2	5	2	
2	CPPGM. LOAD	可	区分編成 U 0 6144	3 9	8 9	6 0	
3	CPPGM. IMG	可	区分編成 U 0 26793	2	9	6	
4	CPPGM. NDICPS	可	順編成 FB 94 940	—	1	1	
5	CPPGM. OVL	可	区分編成 FB 80 3120	1	3	2	
6	CPPGM. WKLOAD	可	区分編成 U 0 6144	1	2	1	日本語名標辞書データ変換プログラムを使用する場合 参照⇒15
7	CPPGM. WKJCL	可	順編成 FB 80 3120	—	1	1	日本語名標辞書データ変換プログラムを使用する場合 参照⇒15
8	CPPGM. KNR. VSAM	可	VSAM F 140 140	1メガ 当たり 1レコード作成 キー部：8バイト KSDS形式 ・目安：250メガ/ 1TRK（F 6 4 2 5の場合）			VSAMの容量見積りは， “VSAM解説書 AFⅡV10用 —OSⅣ/MSP—” を参照
9	CPPGM. NDIC. VSAM	可	VSAM F 94 94		2	1	

表10.1 D A S D所要量 (続 く)

項 番	ファイル名		ファイル形式 レコード長 ブロック長	算 出 式		備 考
	標準名	変更 可否		データ	D A S D所要量	
					F 6 4 2 1	
10	CPPGM. JSMJHP01	可	区分編成 FB 170 レコード長×n	$\left[\frac{1 \text{ プログラム 当たりの平均概要コメント行数} \times \text{保存メンバ数}}{\left[\frac{47476}{\text{ブロック長}+523} \right] \times n} \right]$		使用D A S D装置は F 6 4 2 5として 算出
11	CPPGM. JSMJHP02	可	区分編成 FB 331 レコード長×n	$\left[\frac{2 \times [1 \text{ プログラム 当たり平均定義ファイル数} + \text{平均定義レコード数} + \text{平均定義コピー句数} + \text{平均副プログラム 種類数}] \times \text{保存メンバ数}}{\left[\frac{47476}{\text{ブロック長}+523} \right] \times n} \right]$		使用D A S D装置は F 6 4 2 5として 算出
12	CPPGM. JSMJHP03	可	区分編成 FB 220 レコード長×n	$\left[\frac{6 \times [1 \text{ プログラム 当たり平均PERFORM 文数} + \text{平均CALL文数}] \times \text{保存メンバ数}}{\left[\frac{47476}{\text{ブロック長}+523} \right] \times n} \right]$		使用D A S D装置は F 6 4 2 5として 算出
13	CPPGM. JSMJHP04	可	区分編成 FB 300 レコード長×n	$\left[\frac{1 \text{ プログラム 当たり平均データ定義部 (コピー句展開後) ステップ数} \times \text{保存メンバ数}}{\left[\frac{47476}{\text{ブロック長}+523} \right] \times n} \right]$		使用D A S D装置は F 6 4 2 5として 算出
14	CPPGM. JSMJHP05	可	区分編成 VB 255 レコード長×n+4	$\left[\frac{2 \times [1 \text{ プログラム 当たり平均PRUCEDURE 部 (コピー句展開後) ステップ数}] \times \text{保存メンバ数}}{\left[\frac{47476}{\text{ブロック長}+523} \right] \times n} \right]$		使用D A S D装置は F 6 4 2 5として 算出
15	CPPGM. JSMJHP06	可	区分編成 FB 303 レコード長×n	$\left[\frac{2 \times [1 \text{ プログラム 当たり平均総 (コメント含, コピー句展開の場合は展開後) ステップ数}] \times \text{保存メンバ数}}{\left[\frac{47476}{\text{ブロック長}+523} \right] \times n} \right]$		使用D A S D装置は F 6 4 2 5として 算出
16	CPPGM. JSMJHP07	可	区分編成 VB 255 レコード長×n+4	$\left[\frac{1.5 \times [1 \text{ プログラム 当たり平均総 (コメント含, コピー句展開の場合は展開後) ステップ数}] \times \text{保存メンバ数}}{\left[\frac{47476}{\text{ブロック長}+523} \right] \times n} \right]$		使用D A S D装置は F 6 4 2 5として 算出

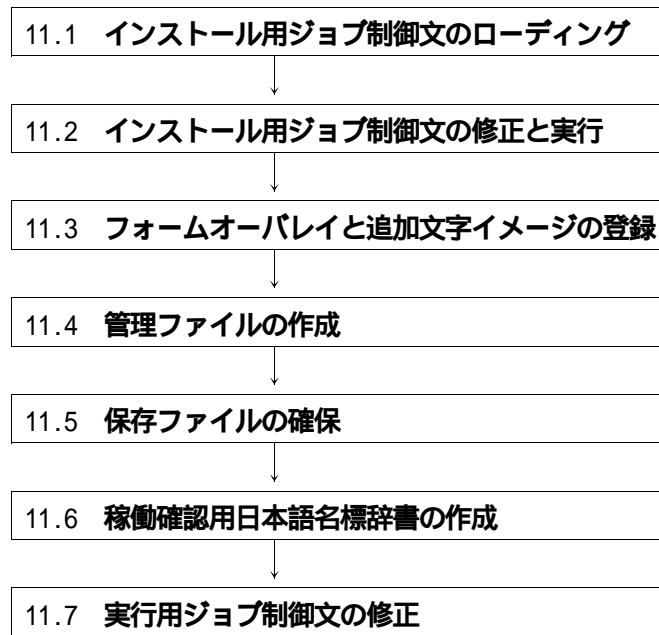
表10.1 D A S D所要量 (続 き)

項 番	ファイル名		ファイル形式 レコード長 ブロック長	算 出 式			備 考
	標準名	変更 可否		データ	D A S D所要量		
					F 6 4 2 1	F 6 4 2 5	
17	CPPGM. JSMJHP08	可	区分編成 VB 255 レコード長×n+4	<div><div>1プログラム 当たり平均総 (コメント含, コピー 句 展開の場合は展開後) ステップ数] × 保存メ ンバ数</div><div><div><div>4 7 4 7 6</div><div>ブロック長+523</div></div>×n</div></div>			使用D A S D装置は F 6 4 2 5として 算出
18	CPPGM. JSMJHP09	可	区分編成 FB 180 レコード長×n	<div><div>1プログラム 当たり平均定義ファイル数 × 保存メ ンバ数</div><div><div><div>4 7 4 7 6</div><div>ブロック長+523</div></div>×n</div></div>			使用D A S D装置は F 6 4 2 5として 算出
19	CPPGM. NWSALIB	可	区分編成 U 0 1024	1	6	4	

11. インストレーションの手引

このソフトウェアをインストールするための手順を説明する。

インストール手順は以下のフローどおり実施する。数字は、以降に示す章・節を表す。



11.1 インストール用ジョブ制御文のローディング

インストール用ジョブ制御文は、JCLファイルの1メンバとして提供している。

このJCLファイルをDASDにローディングするジョブ制御文の例を図 9.1に示す。下線部は、修正箇所である。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//?JOBNAME JOB ,CLASS=H,MSGCLASS=R
//STEP01 EXEC PGM=JSECPY,REGION=512K
//SYSUT1 DD DSN=CPPGM.JCL,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
//          VOL=SER=CPPROG,LABEL=(1,SL)
//SYSUT2 DD UNIT=SYSDA,DSN=USER01.CPPGM.JCL,
//          VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(2,1,2)),DISP=(NEW,CATLG,DELETE)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
//
```

図11.1インストール用ジョブ制御文ローディングのジョブ制御文（例）

11.2 インストール用ジョブ制御文の修正と実行

インストールするシステムに応じ、インストール用ジョブ制御文を修正し実行する。図11.2にインストール用ジョブ制御文を示す。提供JCLファイル中のメンバ名は'INSTALL'である。下線部は修正箇所を示す。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

また、日本語名標辞書データ変換プログラムを使用しない場合は、STEP04及び、STEP05のステップは実行しなくてよい。 参照⇒15

さらに、ネットワークプリンタへの出力を行わない場合は、STEP06の実行はしなくてよい。

参照⇒付録1

ロードモジュールライブラリのインストール先は認定ライブラリであってはならない。 参照⇒6

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//?JOBNAME JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R
//*****
//*      CP-PROGRAM   インストール用JCL
//*****
//STEP01 EXEC PGM=JSECCOPY,REGION=1024K
//IN01    DD DSN=CPPGM.LOAD,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
//          VOL=SER=CPPROG,LABEL=(02,SL)
//IN02    DD DSN=CPPGM.IMG,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
//          VOL=SER=CPPROG,LABEL=(03,SL)
//OUT01   DD UNIT=SYSDA,DSN=USER01.CPPGM.LOAD,
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),VOL=SER=DASDXX,
//          SPACE= (TRK,(61,1,39),RLSE)
//OUT02   DD UNIT=SYSDA,DSN=USER01.CPPGM.IMG,
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),VOL=SER=DASDXX,
//          SPACE= (TRK,(6,1,2),RLSE)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN   DD *
//          COPY INDD=IN01,OUTDD=OUT01
//          COPY INDD=IN02,OUTDD=OUT02
//*
//STEP02 EXEC PGM=JSDGENER,REGION=256K
//SYSUT1  DD DSN=CPPGM.ND1CPS,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
//          VOL=SER=CPPROG,LABEL=(04,SL)
//SYSUT2  DD UNIT=SYSDA,DSN=USER01.CPPGM.ND1CPS,
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),VOL=SER=DASDXX,
//          SPACE= (TRK,(1,1),RLSE)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN   DD DUMMY
//*
//STEP03 EXEC PGM=JSECCOPY,REGION=1024K
//IN      DD DSN=CPPGM.OVL,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
//          VOL=SER=CPPROG,LABEL=(05,SL)
//OUT     DD UNIT=SYSDA,DSN=USER01.CPPGM.OVL,
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),VOL=SER=DASDXX,
//          SPACE= (TRK,(2,1,1),RLSE)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN   DD *
//          COPY INDD=IN,OUTDD=OUT
//*
```

図11.2インストール用ジョブ制御文（続く）

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//STEP04 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=1024K
//IN DD DSN=CPPGM.WKLOAD,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=CPPROG,LABEL=(06,SL)
//OUT DD UNIT=SYSDA,DSN=USER01.CPPGM.WKLOAD,
// DISP=(NEW,CATLG,DELETE),VOL=SER=DASDXX,
// SPACE=(TRK,(1,1,1),RLSE)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN,OUTDD=OUT
/*
//STEP05 EXEC PGM=JSDGENER,REGION=256K
//SYSUT1 DD DSN=CPPGM.WKJCL,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=CPPROG,LABEL=(07,SL)
//SYSUT2 DD DSN=CPPGM.WKJCL,UNIT=SYSDA
// DISP=(NEW,CATLG,DELETE),VOL=SER=DASDXX,
// SPACE=(TRK,(1,1),RLSE)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
/*
//STEP06 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=1024K
//IN DD DSN=CPPGM.NWSALIB,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
// VOL=SER=CPPROG,LABEL=(08,SL)
//OUT DD UNIT=SYSDA,DSN=USER01.CPPGM.NWSALIB,
// DISP=(NEW,CATLG,DELETE),VOL=SER=DASDXX,
// SPACE=(TRK,(12,1,1),RLSE)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN,OUTDD=OUT
/*
//

```

図11.2インストール用ジョブ制御文（続き）

11.3 フォームオーバーレイと追加文字イメージの登録

このソフトウェアではドキュメントの出力時にイメージライブラリを使用している。

11.3.1 提供するイメージ

提供しているイメージ（提供媒体格納番号3番“CPPGM.IMG”）には、フォームオーバーレイイメージと追加文字イメージがある。

イメージのメンバ名は下記のとおりである。

- 追加文字イメージ・・・・・・・・・・KCS1JHGY
- 表紙・・・・・・・・・・KOL1JH81
- 目次・・・・・・・・・・KOL1JH82
- 概要・・・・・・・・・・KOL1JH83
- 概要補助シート・・・・・・・・・・KOL1JH84
- セクション構造図・・・・・・・・・・KOL1JH85
- YACⅡ仕様書・・・・・・・・・・KOL1JH86
- COBOL仕様書・・・・・・・・・・KOL1JH87
- コンパイルリスト・・・・・・・・・・KOL1JH88
- ソースプログラムリスト・・・・・・・・・・KOL1JH89

11.3.2 フォームオーバーレイソースの修正と登録

提供するフォームオーバーレイは、11×15インチ帳票を基準に作成している。

フォームオーバーレイソース（提供媒体格納番号5番“CPPGM.OVL”）を提供しているため、出力ドキュメントに著作権を表示したい等、出力データに影響しない範囲で利用者固有のイメージライブラリを作成できる。

フォームオーバーレイの修正及び登録方法は、“ADJUST 使用手引書 OSⅣ/MSP”を参照されたい。

フォームオーバーレイソース中のメンバ（フォームオーバーレイ識別名）は下記のとおりである。

- 表紙・・・・・・・・・・'JH81'
- 目次・・・・・・・・・・'JH82'
- 概要・・・・・・・・・・'JH83'
- 概要補助シート・・・・・・・・・・'JH84'
- セクション構造図・・・・・・・・・・'JH85'
- YACⅡ仕様書・・・・・・・・・・'JH86'
- COBOL仕様書・・・・・・・・・・'JH87'
- コンパイルリスト・・・・・・・・・・'JH88'
- ソースプログラムリスト・・・・・・・・・・'JH89'

なお、フォームオーバーレイ識別名を変更する場合は、プログラムの修正が必要となるため、当社技術員までカスタマイズ作業を依頼する。

11.3.3 追加文字イメージについて

追加文字イメージは、ドキュメント「プログラム概要」の出力時に使用している。

- 追加文字イメージ（セット）名・・・・・・・・・・'JHGY'

登録されている追加文字コードの範囲：X'96B3'～X'96FE'

なお、追加文字コードのカスタマイズが必要な場合は、当社技術員まで連絡する。

11.4 管理ファイルの作成

このソフトウェアではドキュメント出力時のページ管理のために管理ファイル（VSAM）を使用している。11.1でローディングした提供JCLのうち管理ファイル作成用ジョブ制御文をシステムに応じて修正する。メンバ名は'KNR#VSAM'である。

図11.3に管理ファイル作成用ジョブ制御文を示す。下線部は修正箇所を示す。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//?JOBNAME JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R
//*****
//*          C P - P R O G R A M   管理ファイル作成用JCL
//*****
//JOB LIB DD DSN=USER01.CPPGM.LOAD,DISP=SHR _____ ①
//          DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR _____ ②
//JOB CAT DD DSN=VSMUCAT,DISP=SHR _____ ③
//***** 管理ファイル用VSAM領域の確保 *****
//STEP01 EXEC PGM=KQCAMS,REGION=512K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
DELETE (USER01.CPPGM.KNR.VSAM) CL
DEFINE CLUSTER -
    (NAME (USER01.CPPGM.KNR.VSAM), -
    VOLUMES (DASDXX), -
    INDEXED, -
    SHR(3 3), -
    KEYS(008,0), -
    REPLICATE, -
    UNIQUE, - _____ ④
    RECORDSIZE(140 140) -
    TRK(005,01)) -
DATA -
    (NAME (USER01.CPPGM.KNR.VSAM.DATA) -
    CONTROLINTERVALSIZE(4096)) -
INDEX -
    (NAME (USER01.CPPGM.KNR.VSAM.IX) -
    CONTROLINTERVALSIZE(2048))
/*
//***** 初期データ設定 *****
//STEP02 EXEC PGM=JSMJHA00,REGION=1024K
//JSMJHKNR DD DSN=USER01.CPPGM.KNR.VSAM,DISP=SHR
//
```

図11.3 管理ファイル作成用ジョブ制御文

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85コンパイラ，COBOL85ライブラリを指定する。ただし，認定ライブラリとなっているものは，指定する必要はない。
- ③ 必要に応じてVSAM用のユーザカタログを指定する。
- ④ 管理ファイルをVSAMスペースに確保する場合は，この行を削除する。

11.5 保存ファイルの確保

このソフトウェアではCOBOLソースプログラムおよび登録集原文(COPY句)の解析結果を保存するために、各種の保存ファイル(区分編成ファイル)を使用している。11.1でローディングした提供JCLのうち保存ファイル確保用ジョブ制御文をシステムに応じて修正する。メンバ名は'POALOC'である。

図11.4に保存ファイル確保用ジョブ制御文を示す。下線部は修正箇所を示す。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//?JOBNAME JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R
//*****
//* CP-PROGRAM 保存ファイル確保用JCL
//*****
//JOBLIB DD DSN=USER01.CPPGM.LOAD,DISP=SHR ①
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR ②
//JOB CAT DD DSN=VSMUCAT,DISP=SHR ③
//***** 保存ファイル削除 *****
//STEP01 EXEC PGM=KQCAMS,REGION=512K
//SYS PRINT DD SYSOUT=*
//SYS IN DD *
DELETE (USER01.CPPGM.JSMJHP01) NONVSAM
DELETE (USER01.CPPGM.JSMJHP02) NONVSAM
DELETE (USER01.CPPGM.JSMJHP03) NONVSAM
DELETE (USER01.CPPGM.JSMJHP04) NONVSAM
DELETE (USER01.CPPGM.JSMJHP05) NONVSAM
DELETE (USER01.CPPGM.JSMJHP06) NONVSAM
DELETE (USER01.CPPGM.JSMJHP07) NONVSAM
DELETE (USER01.CPPGM.JSMJHP08) NONVSAM
DELETE (USER01.CPPGM.JSMJHP09) NONVSAM
/*
//***** 保存ファイル確保 *****
//STEP02 EXEC PGM=JSMJHB00,REGION=1024K
//JSMJHP01 DD DSN=USER01.CPPGM.JSMJHP01,DISP=(NEW,CATLG),
// UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(30,0,50)),
// DCB=(DSORG=PO,RECFM=FB,LRECL=170,BLKSIZE=3060)
//JSMJHP02 DD DSN=USER01.CPPGM.JSMJHP02,DISP=(NEW,CATLG),
// UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(100,0,50)),
// DCB=(DSORG=PO,RECFM=FB,LRECL=331,BLKSIZE=3310)
//JSMJHP03 DD DSN=USER01.CPPGM.JSMJHP03,DISP=(NEW,CATLG),
// UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(100,0,50)),
// DCB=(DSORG=PO,RECFM=FB,LRECL=220,BLKSIZE=3080)
//JSMJHP04 DD DSN=USER01.CPPGM.JSMJHP04,DISP=(NEW,CATLG),
// UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(100,0,50)),
// DCB=(DSORG=PO,RECFM=FB,LRECL=300,BLKSIZE=3000)
//JSMJHP05 DD DSN=USER01.CPPGM.JSMJHP05,DISP=(NEW,CATLG),
// UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(100,0,50)),
// DCB=(DSORG=PO,RECFM=VB,LRECL=255,BLKSIZE=3064)
//JSMJHP06 DD DSN=USER01.CPPGM.JSMJHP06,DISP=(NEW,CATLG),
// UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(100,0,50)),
// DCB=(DSORG=PO,RECFM=FB,LRECL=303,BLKSIZE=3030)
//JSMJHP07 DD DSN=USER01.CPPGM.JSMJHP07,DISP=(NEW,CATLG),
// UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(100,0,50)),
// DCB=(DSORG=PO,RECFM=VB,LRECL=255,BLKSIZE=3064)
//JSMJHP08 DD DSN=USER01.CPPGM.JSMJHP08,DISP=(NEW,CATLG),
// UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(100,0,50)),
// DCB=(DSORG=PO,RECFM=VB,LRECL=255,BLKSIZE=3064)
```

図11.4 保存ファイル確保用ジョブ制御文(続く)

	1	2	3	4	5	6	7
----	----	----	----	----	----	----	----
//JSMJHP09 DD	DSN=USER01.CPPGM.JSMJHP09,DISP=(NEW,CATLG),						
//	UNIT=SYSDA,VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(20,0,50)),						
//	DCB=(DSORG=PO,RECFM=FB,LRECL=180,BLKSIZE=3060)						
//							

図11.4 保存ファイル確保用ジョブ制御文(続き)

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85コンパイラ,COBOL85ライブラリを指定する。ただし,認定ライブラリとなっているものは,指定する必要はない。
- ③ 必要に応じてVSAM用のユーザカタログを指定する。

11.6 稼働確認用日本語名標辞書の作成

このソフトウェアではドキュメント出力時の日本語変換（メンバ名，プログラム名，セクション名，項目名等）のために日本語名標辞書データセット（VSAMまたはPS）を使用することができる。11.1でローディングした提供JCLのうち日本語名標辞書作成用ジョブ制御文をシステムに応じて修正する。メンバ名は'@USERDIC'である。

図11.5に日本語名標辞書作成用ジョブ制御文を示す。下線部は修正箇所を示す。なお，下線が引かれていない部分でも，システムに合わせて装置名などを変更する。

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//?JOBNAME JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R
//*****
//* CP-PROGRAM 日本語名標辞書作成用JCL
//*****
//JOB LIB DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR ①
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR
//JOB CAT DD DSN=VSMUCAT,DISP=SHR ②
//***** 日本語名標辞書用のVSAM領域の確保 *****
//STEP01 EXEC PGM=KQCAMS,REGION=512K
//SYS PRINT DD SYSOUT=*
//SYS IN DD *
DELETE (USER01.CPPGM.NDIC.VSAM) CLUSTER
DEFINE CLUSTER
    (NAME (USER01.CPPGM.NDIC.VSAM),
    VOLUME (DASDXX),
    INDEXED,
    SHR(3 3),
    KEYS(030,0),
    REPLICATE,
    IMBED,
    UNIQUE, ③
    RECORDS(94,94),
    TRK(1,1))
DATA
    (NAME (USER01.CPPGM.NDIC.VSAM.DATA) -
    CONTROLINTERVALSIZE(4096))
INDEX
    (NAME (USER01.CPPGM.NDIC.VSAM.IX) -
    CONTROLINTERVALSIZE(2048))
/*
//***** 日本語名標辞書データのソート *****
//STEP02 EXEC PGM=SORT,REGION=1024K
//SORT IN DD DSN=USER01.CPPGM.NDICPS,DISP=SHR ④
//SORT OUT DD DSN=&&SORTOUT,DISP=(NEW,PASS),UNIT=SYSDA,
// SPACE=(TRK,(1,1))
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(20,10))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(20,10))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(20,10))
//SYS IN DD *
SORT FIELDS=(1,30,CH,A)
/*
```

図11.5 日本語名標辞書作成用ジョブ制御文（続く）

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
//***** 日本語名標辞書の作成 *****
//STEP03 EXEC PGM=JRQJAFE,REGION=1024K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSLIST DD DUMMY
//JAFLIB DD DSN=USER01.CPPGM.ND1C.VSAM,DISP=SHR
//CHGLIB DD DSN=&&SORTOUT,DISP=(OLD,DELETE)
//SYSIN DD *
- ADD OUT(JAFLIB),FIELDS=((30),(2,A,R),(2,A,R),(30,K)),KLIST
- FORMAT SAME
- CHGIN IN(CHGLIB)
- END
/*
//

```

図11.5 日本語名標辞書作成用ジョブ制御文（続き）

- ① COBOL85コンパイラ，COBOL85ライブラリおよびADJUSTのライブラリを指定する．
ただし，認定ライブラリとなっているものは，指定する必要はない．
- ② 必要に応じてVSAM用のユーザカタログを指定する．
- ③ 日本語辞書をVSAMスペースに確保する場合は，この行を削除する．
- ④ 11.2でローディングした稼働確認用日本語名標辞書データを指定する．

11.7 ドキュメント出力用ジョブ制御文の修正

このソフトウェアを稼働させるためのジョブ制御文の修正方法を以下に説明する。11.1でローディングした提供JCLファイルのうちドキュメント出力機能用ジョブ制御文をシステムに応じて修正する。

提供JCLファイル中のメンバ名は 'CPPGMDOC' である。

図11.6にドキュメント出力機能用ジョブ制御文を示す。下線部は修正箇所を示す。なお、下線部以外にもPARMパラメタ、SYSIN制御文およびシステムに合わせて装置名の修正を行う。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//?JOBNAME JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R
//*****
//* CP-PROGRAM実行用JCL
//* 表紙,目次,概要,セクション構造図,YAC2仕様書 出力用
//*****
//JOB LIB DD DSN=USER01.CPPGM.LOAD,DISP=SHR ①
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.CB85DF.LINKLIB,DISP=SHR ②
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR
//JOB CAT DD DSN=VSMUCAT,DISP=SHR ③
//IMAGELIB DD DSN=USER01.CPPGM.IMG,DISP=SHR ④
//CPPGM EXEC PGM=JSMJH000,REGION=3072K,SPARM='LANG=J',
// PARM='HIOSYAC(PAIR,LPI=6),HANYO,HYP1,SPL=3'
//JSMJHSIN DD *
@MOPT MEMBER='TESTCBL'
@OLOPT REC,COMM=*****
@DFOPT DATA
@FCBOPT FCB6=STD2,FCB8=STD3 ⑤
/*
//JSMJHGRP DD *
SYSTEM SEISANKN
SUBSYS HANBAI
JOB URIAGE
NAME '両備SOL'
/*
//JSMJHRTB DD *
LSTDD P
/*
//DD01 DD DSN=USER01.CPPGM.JCL,DISP=SHR ⑥
//DD02 DD DSN=USER01.CPPGM.JCL,DISP=SHR ⑦
/*
//MEMBER DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(1,1))
//MSGLIST DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(2,2))
//NLP DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,5))
//SOURCE DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(20,5)),DCB=BLKSIZE=3160
//SOURCE1 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(20,5)),DCB=BLKSIZE=3112
//SYMBOL1 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,2)),DCB=BLKSIZE=3024
//SYMBOL2 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,2)),DCB=BLKSIZE=3100
//SYSUT4 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,2))
//SYSIN DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(20,5)),DCB=BLKSIZE=2590
//SYSPRINT DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(2,2))
//SYSUT1 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(5,5))
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,2))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,2))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,2))
//SYSOUT DD DUMMY

```

図11.6 ドキュメント出力機能ジョブ制御文（続く）

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--			
//JSMJHP01 DD	DSN=USER01.CPPGM.JSMJHP01,DISP=SHR	_____	⑧
//JSMJHP02 DD	DSN=USER01.CPPGM.JSMJHP02,DISP=SHR	_____	
//JSMJHP03 DD	DSN=USER01.CPPGM.JSMJHP03,DISP=SHR	_____	
//JSMJHP04 DD	DSN=USER01.CPPGM.JSMJHP04,DISP=SHR	_____	
//JSMJHP05 DD	DSN=USER01.CPPGM.JSMJHP05,DISP=SHR	_____	
//JSMJHP06 DD	DSN=USER01.CPPGM.JSMJHP06,DISP=SHR	_____	
//JSMJHP07 DD	DSN=USER01.CPPGM.JSMJHP07,DISP=SHR	_____	
//JSMJHP08 DD	DSN=USER01.CPPGM.JSMJHP08,DISP=SHR	_____	
//JSMJHP09 DD	DSN=USER01.CPPGM.JSMJHP09,DISP=SHR	_____	
//*			
//JSMJHKNR DD	DSN=USER01.CPPGM.KNR.VSAM,DISP=SHR	_____	⑨
//JSMJH010 DD	UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(5,2))		
//JSMJH020 DD	UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(5,2))		
//JSMJH030 DD	UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(5,2))		
//JSMJH040 DD	UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(5,2))		
//JSMJH050 DD	UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(5,2))		
//JSMJH060 DD	UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(5,2))		
//JSMJH070 DD	UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(5,2))		
//JSMJH080 DD	UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(5,2))		
//JIMLIB DD	DSN=USER01.CPPGM.NDIC.VSAM,DISP=SHR	_____	⑩
//JAPLIB DD	DSN=USER01.CPPGM.NDIC.VSAM,DISP=SHR	_____	⑪
//PDF DD	DSN=USER01.CPPGM.NDIC.VSAM,DISP=SHR	_____	⑫
//JSMJHPRT DD	SYSOUT=*	_____	⑬
//JSMJHMKJ DD	SYSOUT=*	_____	⑭
//JSMJHLST DD	SYSOUT=*	_____	⑮
//			

図11.6ドキュメント出力機能ジョブ制御文（続き）

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85コンパイラ，COBOL85ライブラリ，COBOL85DF，ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。ただし，認定ライブラリとなっているものは，指定する必要はない。
- ③ 必要に応じてVSAM用のユーザカタログを指定する。
- ④ イメージライブラリを指定する。
- ⑤ 6LPI出力用と8LPI出力用の用紙出力制御名を指定する。
- ⑥ 入力元のソースライブラリを指定する。
- ⑦ 入力元のコピーライブラリを指定する。
- ⑧ 保存ファイルを指定する。新規データセットとして割り当てる場合は，DCBパラメタで'DSORG=PO'（区分編成指定）及び，SPACEパラメタでディレクトリブロック数を必ず指定する。参照⇒11.5
- ⑨ 管理ファイルを指定する。通しページの管理等が不要の場合はDUMMY指定でもよい。参照⇒11.4
- ⑩ 利用者が⑥および⑦を入力とした通常のCOBOL85の翻訳をする時に，日本語定数項目の変換を行っている場合は，該当の日本語変換辞書を指定する。通常の翻訳で日本語変換辞書を使用していない場合は，指定する必要はない。
- ⑪ 日本語名標辞書を指定する。参照⇒11.6
実行時オプション'NOHANYO'指定時は，指定する必要はない。

- ⑫ COBOL 85 DF用日本語辞名標辞書を指定する。VSAM形式の場合は⑩と同一の辞書を指定すれば良いが、順アクセス形式の場合は、COBOL 85 DF用の順アクセス形式の日本語名標辞書を指定する。

実行時オプション 'NOHANYO' 指定時は、DUMMY 指定とし、@DFOPT制御文のオペランドに 'NOJRD' を追加する。 参照⇒15

- ⑬ 実行結果リストの出力先を指定する。
- ⑭ 表紙・目次の出力先を指定する。
- ⑮ プログラム設計書の出力先を指定する。

11.8 チェックリスト出力用ジョブ制御文の修正

このソフトウェアを稼働させるためのジョブ制御文の修正方法を以下に説明する。11.1でローディングした提供JCLファイルのうちチェックリスト出力機能用ジョブ制御文をシステムに応じて修正する。

提供JCLファイル中のメンバ名は 'CPPGMCHK' である。

図11.7にチェックリスト出力機能用ジョブ制御文を示す。下線部は修正箇所を示す。なお、下線部以外にもPARM文、SYSIN制御文およびシステムに合わせて装置名の修正を行う。

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//?JOBNAME JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R
//*****
//*   CP-PROGRAM実行用JCL
//*   チェックリスト 出力用
//*****
//JOB LIB DD DSN=USER01.CPPGM.LOAD,DISP=SHR ①
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR ②
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR
//JOB CAT DD DSN=VSMUCAT,DISP=SHR ③
//STEP1 EXEC PGM=JSMJH000,REGION=1024K,
// PARM='CHECK'
//JSMJHSIN DD *
@MOPT MEMBER='TESTCBL'
/*
//DD01 DD DSN=USER01.CPPGM.JCL,DISP=SHR ④
//JSMJHKNR DD DSN=USER01.CPPGM.KNR.VSAM,DISP=SHR ⑤
//JAPLIB DD DSN=USER01.CPPGM.ND1C.VSAM,DISP=SHR ⑥
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(20,2))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(20,2))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(20,2))
//SYSOUT DD DUMMY
//JSMJHPRT DD SYSOUT=* ⑦
//JSMJHCHK DD SYSOUT=* ⑧
//
```

図11.7 チェックリスト出力機能ジョブ制御文

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL 85 コンパイラ、COBOL 85 ライブラリ、ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。ただし、認定ライブラリとなっているものは、指定する必要はない。
- ③ 必要に応じてVSAM用のユーザカタログを指定する。
- ④ 日付チェック対象のソースライブラリを指定する。
- ⑤ 日付チェック対象の管理ファイルを指定する。
- ⑥ プログラム名の日本語変換を行う場合に日本語変換辞書を指定する。
実行時オプション 'NOHANYO' 指定時は、指定する必要はない。
- ⑦ 実行結果リストの出力先を指定する。
- ⑧ チェックリストの出力先を指定する。

12. 使用上の注意事項

このソフトウェアの注意事項のうち、主要なものを説明する。その他の注意事項については、適用マニュアルを参照されたい。

12.1 フォームオーバーレイの出力

本ソフトウェアでは、COBOLの制御レコードを使用してフォームオーバーレイの焼付けを行っているので、JES初期化文の出力クラスの特性の定義で、GRAPHパラメタを指定しなければならない。

GRAPHパラメタが指定されていない場合は、フォームオーバーレイは出力されない。GRAPHパラメタの詳細については、“運用手引書 JES編 –OSIV/MSP–”を参照されたい。

12.1 日本語名標辞書

日本語名標辞書のファイル編成は、順編成、VSAMで作成できるが、性能上VSAMが望ましい。

12.2 CLPでの出力

CLPの印刷モードには、NativeモードとNLPモードの2種類があるが、NLPと同様の印刷禁止領域の制御を行う為には、NLPモードを指定する。

13. 稼働確認

このソフトウェアの稼働確認の手順を説明する。

13.1 表紙, 目次, プログラム概要, 概要補助シート, YAC II 仕様書の稼働確認

提供 JCL ファイルのメンバ 'CPPGMDOC' を修正し, メンバ 'TESTCBL' を入力として実行する。

a) ジョブ制御文の修正

稼働確認のためのジョブ制御文の修正箇所を説明する。説明以外の箇所は, “11.7 ドキュメント出力用ジョブ制御文の修正” で修正した内容と同様である。 参照⇒11.7

正常に稼働した場合には, 図13.1~13.8 と同一のドキュメントが出力されるので確認されたい。ただし, 日本語名標辞書を利用しない場合は日本語名は出力されない。また, 目次とプログラム概要(補助シート)に出力されるメンバの作成日付および最終更新日付時刻に関しては, 当提供媒体作成時のものが設定されている。

- PARM パラメタに 'HIOSYAC(PAIR, LPI=6), HANYO, HYP1, SPL=3' を指定する。
- JSMJHSIN 制御文の @MOPT 制御文に MEMBER='TESTCBL',
@OLOPT 制御文に REC, COMM=*****,
@DFOPT 制御文に DATA,
@FCBOPT 制御文に FCB6=STD2, FCB8=STD3 を指定する。
- JSMJHGRP 制御文の SYSTEM 制御文に SEISANKN,
SUBSYS 制御文に HANBAI,
JOB 制御文に URIAGE,
NAME 制御文に '両備 SOL' を指定する。
- JSMJHZTB 制御文に LSTDD P を指定する。
- DD01 DD 文, DD02 DD 文に, 提供 JCL ファイルを指定する。
- JIMLIB DD 文に, 提供日本語名標辞書(VSAM)を指定する。 参照⇒11.6
- JAPLIB DD 文に, 提供日本語名標辞書(VSAM)を指定する。 参照⇒11.6
- PDF DD 文に, 提供日本語名標辞書(VSAM)を指定する。 参照⇒11.6

				作成日	担 当	
				*** ** (注1)	両備SOL	

プログラム設計書

システム名	生産管理SYS	ID	SEISANKN
サブシステム名	販売SYS	ID	HANBAI
ジョブ名	売上表出力	ID	URIAGE
モジュール名		ID	

版	変更日付	変更者	変 更 内 容	備 考

注1) CP-PROGRAMを稼働させた日付が出力される。

All Rights Reserved, Copyright©

図13.1 表紙の出力例

目次	システム名		サブシステム名		ジョブ名		作成日 ** ** *(注1)	担当 両備SOL	ページ 1
	生産管理SYS		販売SYS		売上表出力				
	ID	SEISANKN	ID	HANBAI	ID	URIAGE			

項番	モジュール名(AN)	モジュール名(N)	更新日付	更新時間	ページ	項番	モジュール名(AN)	モジュール名(N)	更新日付	更新時間	ページ
1.	TESTCBL	稼働確認用モジュール	08.11.28	16:02:00	1						

版	変更日付	変更者	変更内容	備考

注1) CP-PROGRAMを稼働させた日付が出力される。

All Rights Reserved, Copyright©

図13.2 目次の出力例

システム名	サブシステム名	ジョブ名	モジュール名	作成日	担 当	ページ
生産管理SYS	販売SYS	売上表出力	稼働確認用モジュール	*** ** *	両備 SOL	1
ID SEISANKN	ID HANBAI	ID URIAGE	ID TESTCBL	(注1)		

プログラムダイアグラム

```

graph TD
    INDD1((INDD1)) --> TESTCBL[TESTCBL]
    INDD2((INDD2)) --> TESTCBL
    TESTCBL --> LSTDD((LSTDD))
    subgraph Module
        TESTCBL
    end
    style Module fill:none,stroke:none
    
```

機能説明

プログラム ID TESTCBL

プログラム M 稼働確認用モジュール

担当者 両備システムソリューションズ

作成日 94.04.13

修正履歴

修正日	修正者
08.11.28	両備 花子

<機能概要>

売り上げファイルを読み込み、売り上げ一覧表を出力する。一覧表の作成には、顧客マスタと在庫ファイルを参照し、各ファイルの更新を行いながら帳票に出力する。

<使用外部モジュール一覧>

- TESTPRG2 (在庫データ入力)
- TESTPRG3 (売り上げデータ入力)

<内部使用ファイル一覧>

- FILE1 (在庫ファイル)
- FILE2 (顧客マスタファイル)
- FILE3 (更新結果リスト)

版	変更日付	変更者	変 更 内 容	備 考

< 1 >

All Rights Reserved, Copyright ©

注1) CP-PROGRAMを稼働させた日付が出力される。

図13.3 プログラム概要の出力例

プログラム概要 (補助シート)	システム名		サブシステム名		ジョブ名		モジュール名		作成日	担 当	ページ
	生産管理SYS		販売SYS		売上表出力		稼働確認用モジュール		*** (注1)	両備SOL	2
	ID	SEISANKN	ID	HANBAI	ID	URIAGE	ID	TESTCBL			

*** プログラム管理表 ***

NO	モジュール名	プログラム名	ステップ数	サブスキーマ名	データセット名	作成/更新日
1	TESTCBL	TESTCBL 稼働確認用モジュール	76 (105)		(注2)	94.04.13 08.11.28

+ ファイル情報 +
< F D 情報 >

DD名	ファイル名	レコード名	IO	編成	形式	コピー句名	レコード長
INDD1	FILE1 在庫ファイル	ZIK-REC1 在庫マスタレコード1	I	PS	F	COPY1 マスタC P Y	30
INDD2	FILE2 顧客マスタファ	MST-REC1 顧客マスタレコード1	I	PS	F	COPY1 マスタC P Y	30
LSTDD	FILE3 更新結果リスト	REC2 LOGレコード	O	PS			200

< WORK情報 >

レコード名	コピー句名	レコード名	コピー句名
REC4 レコード4	COPY2 レコード4 C P Y	REC3 MSGレコード	
WK-FLG 作業フラグ			

< LINKAGE情報 >

レコード名	コピー句名	レコード長	レコード名	コピー句名	レコード長
REC6 パラメタ領域	COPY3 レコード6 C P Y	25			

版	変更日付	変更者	変 更 内 容	備考

< 2 >

All Rights Reserved, Copyright ©

注1) C P - PROGRAMを稼働させた日付が出力される。

注2) J C LのDD01で指定したファイル名が出力される。

図13.4 プログラム概要補助シートの出力例1

<div> <div>プログラム概要</div> <div>(補助シート)</div> </div>	システム名		サブシステム名		ジョブ名		モジュール名		作成日	担 当	ページ
	生産管理SYS		販売SYS		売上表出力		稼働確認用モジュール		** ** *	両備SOL	3
	ID	SEISANKN	ID	HANBAI	ID	URIAGE	ID	TESTCBL			

+

入口点情報

+

入口点名	入口種別	パラメタ		
TESTCBL 稼働確認用モジュール	一次	REC6 パラメタ領域		

+

副プログラム情報

+

副プログラム名	CALL種別	一意名	パラメタ	
TESTPRG2 在庫データ入力	定数		REC3 MSGレコード	
	変数	CALLNAME	REC4 レコード4	
TESTPRG3 売り上げデータ入力	定数			

+

実行部コピー情報

+

コピー句名					
COPY5					

版	変更日付	変更者	変 更 内 容	備 考

< 3 >

All Rights Reserved, Copyright ©

注1) CP-PROGRAMを稼働させた日付が出力される。

図13.5 プログラム概要補助シートの出力例2

セクション 構造図	システム名		サブシステム名		ジョブ名		モジュール名		作成日	担 当	ページ
	生産管理SYS		販売SYS		売上表出力		稼働確認用モジュール		** * * * (注1)	両備SOL	1
	ID	SEISANKN	ID	HANBAI	ID	URIAGE	ID	TESTCBL			

PROC_{SEC}
SEC-PROC
006300

初期処理_{SEC}
SEC-INIT-SYORI
007100

主処理_{SEC}
SEC-MAIN-SYORI
008300

終了処理_{SEC}
SEC-END-SYORI
010200

オープン処理_{SEC}
SEC-OPEN-SYORI
007800

顧客マスタファイル処理_{SEC}
SEC-FILE2-SYORI
008100

在庫ファイル処理_{SEC}
SEC-FILE1-SYORI
009900

在庫データ入力
TESTPRG2

顧客マスタファイル処理_{SEC}
SEC-FILE2-SYORI
008100

CALLNAME
CALLNAME

売り上げデータ入力
TESTPRG3

版	変更日付	変更者	変 更 内 容	備考

< 4 >

All Rights Reserved, Copyright©

注1) CP-PROGRAMを稼働させた日付が出力される。

図13.6 セクション構造図の出力例

YACⅡ仕様書	システム名		サブシステム名		ジョブ名		モジュール名		作成日	担当	ページ
	生産管理SYS		販売SYS		売上表出力		稼働確認用モジュール		** ** ** *	両備SOL	1
	ID	SEISANKN	ID	HANBAI	ID	URIAGE	ID	TESTCBL			

FILE

(S)

```

FD 在庫ファイル
   RECORDING MODE IS F.
  01 在庫マスタレコード1.
     03 在庫マスタKEY          PIC X(10).
     03 ZIK-BBB                PIC X(20).

FD 顧客マスタファイル
   RECORDING MODE IS F.
  01 顧客マスタレコード1.
     03 顧客マスタKEY          PIC X(10).
     03 MST-BBB                PIC X(20).

FD 更新結果リスト.
  01 LOGレコード.
     03 FILLER                  PIC X(200).

```

(E)

版	変更日付	変更者	変 更 内 容	備 考

< 5 >

All Rights Reserved, Copyright©

注1) CP-PROGRAMを稼働させた日付が出力される。

図13.7 YACⅡ仕様書 (DATA部) の出力例

YACⅡ仕様書		システム名		サブシステム名		ジョブ名		モジュール名		作成日	担当	ページ
		生産管理SYS		販売SYS		売上表出力		稼働確認用モジュール		** ** ** (注1)	両備SOL	8
		ID	SEISANKN	ID	HANBAI	ID	URIAGE	ID	TESTCBL			

主処理_{SEC}

S

IF 在庫マスタKEY = 顧客マスタKEY

YES

在庫ファイル処理_{SEC}

IF 作業終了

YES

<主出口_{SEC}>

NO

在庫データ入力

MSGレコード

NO

IF 在庫マスタKEY > 顧客マスタKEY

YES

顧客マスタファイル処理_{SEC}

CALLNAME〔一意名〕

レコード4

売り上げデータ入力

主出口_{SEC}

EXIT

E

版	変更日付	変更者	変 更 内 容	備 考	

版	変更日付	変更者	変 更 内 容	備考	

< 12 >

All Rights Reserved, Copyright©

注1) CP-PROGRAMを稼働させた日付が出力される。

図13.8 YACⅡ仕様書(手続き部)の出力例

13.2 COBOL仕様書の稼働確認

提供JCLファイルのメンバ'CPPGMDOC'を修正し、メンバ'TESTCBL'を入力として実行する。

a) ジョブ制御文の修正

稼働確認のためのジョブ制御文の修正箇所を説明する。説明以外の箇所は、“11.7ドキュメント出力用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同様である。 参照⇒11.7

正常に稼働した場合には、図13.9～図13.10 と同一のドキュメントが出力されるので確認されたい。ただし、日本語名標辞書を利用しない場合は日本語名は出力されない。

- － PARMパラメタに'COB(PAIR,LPI=6),HANYO,HYP1,SPL=3,'を指定する。
- － JSMJHSIN制御文の@MOPT制御文にMEMBER='TESTCBL',
@DFOPT制御文にNOPCOBを指定する。
@FCBOPT制御文にFCB6=STD2を指定する。
- － JSMJHGRP制御文のSYSTEM制御文にSEISANKN,
SUBSYS制御文にHANBAI,
JOB制御文に URIAGE,
NAME制御文に '両備SOL'を指定する。
- － DD01 DD文,DD02 DD文に、提供JCLファイルを指定する。
- － JIMLIB DD文に、提供日本語名標辞書(VSAM)を指定する。 参照⇒11.6
- － JAPLIB DD文に、提供日本語名標辞書(VSAM)を指定する。 参照⇒11.6
- － PDF DD文に、提供日本語名標辞書(VSAM)を指定する。 参照⇒11.6

COBOL仕様書	システム名		サブシステム名		ジョブ名		モジュール名		作成日	担 当	ページ
	生産管理SYS		販売SYS		売上表出力		稼働確認用モジュール		*** ***(注1)	両備SOL	2
	ID	SEISANKN	ID	HANBAI	ID	URIAGE	ID	TESTCBL			

SEQNO	08	A	B	16	*	24	*	32	*	40	*	48	*	72	*	<< 日 本 語 表 示 >>	
004200	FD	FILE1														FD	在庫ファイル
004300		RECORDING MODE IS F.															RECORDING MODE IS F.
004400*		COPY COPY1 REPLACING ==(())= BY ==ZIK==.															
000100	01	ZIK-REC1.														01	在庫マスタレコード1.
000200	03	ZIK-AAA										PIC	X(10).	03	在庫マスタKEY	PIC	X(10).
000300	03	ZIK-BBB										PIC	X(20).	03	ZIK-BBB	PIC	X(20).
004500	FD	FILE2														FD	顧客マスタファイル
004600		RECORDING MODE IS F.															RECORDING MODE IS F.
004700*		COPY COPY1 REPLACING ==(())= BY ==MST==.															
000100	01	MST-REC1.														01	顧客マスタレコード1.
000200	03	MST-AAA										PIC	X(10).	03	顧客マスタKEY	PIC	X(10).
000300	03	MST-BBB										PIC	X(20).	03	MST-BBB	PIC	X(20).
004800	FD	FILE3.														FD	更新結果リスト.
004900	01	REC2.														01	LOGレコード.
005000	03	FILLER										PIC	X(200).	03	FILLER	PIC	X(200).
005100	WORKING-STORAGE	SECTION.														WORKING-STORAGE	SECTION.
005200*		COPY COPY2.															
000100	01	REC4.														01	レコード4.
000200	03	MSG-CODE-1										PIC	X(05).	03	メッセージコード1	PIC	X(05).
000300	03	CALLNAME										PIC	X(08).	03	CALLNAME	PIC	X(08).
005300	01	REC3.														01	MSGレコード.
005400	03	MSG-CODE-1										PIC	X(05).	03	メッセージコード1	PIC	X(05).
005500	01	WK-FLG.														01	作業フラグ.
005600	03	WK-SYORI										PIC	X(01).	03	作業処理	PIC	X(01).
005700	88	WK-START										VALUE	'0'.	88	作業開始	VALUE	'0'.
005800	88	WK-END										VALUE	'1'.	88	作業終了	VALUE	'1'.
005900	LINKAGE	SECTION.														LINKAGE	SECTION.
006000*		COPY COPY3.															
000100	01	REC6.														01	パラメタ領域.
000200	03	A01										PIC	9(10).	03	パラメタ1	PIC	9(10).
000300	03	A02										PIC	X(15).	03	パラメタ2	PIC	X(15).

版	変更日付	変更者	変 更 内 容	備考

< 6 >

All Rights Reserved, Copyright©

注1) CP-PROGRAMを稼働させた日付が出力される。

図13.9 COBOL仕様書の出力例1

COBOL仕様書	システム名		サブシステム名		ジョブ名		モジュール名		作成日	担 当	ページ
	生産管理SYS		販売SYS		売上表出力		稼働確認用モジュール		** ***(注1)	両備SOL	3
	ID	SEISANKN	ID	HANBAI	ID	URIAGE	ID	TESTCBL			

SEQNO08162432404872
A B * * * * * . . *

<< 日 本 語 表 示 >>

006100/
006200 PROCEDURE DIVISION USING REC6.
006300 SEC-PROC SECTION.
006400 PERFORM SEC-INIT-SYORI.
006500 PERFORM UNTIL WK-END
006600 PERFORM SEC-MAIN-SYORI
006700 END-PERFORM.
006800 PERFORM SEC-END-SYORI.
006900 SEC-PROC-E.
007000 STOP RUN.
007100 SEC-INIT-SYORI SECTION.
007200 PERFORM SEC-OPEN-SYORI.
007300 SET WK-START TO TRUE.
007400 PERFORM SEC-FILE2-SYORI.
007500 MOVE MST-AAA TO ZIK-AAA.
007600 SEC-INIT-E.
007700 EXIT.
007800 SEC-OPEN-SYORI SECTION.
007900 OPEN INPUT FILE1 FILE2.
008000 OPEN OUTPUT FILE3.
008100 SEC-FILE2-SYORI SECTION.
008200 READ FILE2 AT END MOVE HIGH-VALUE
008300 SEC-MAIN-SYORI SECTION.
008400 IF ZIK-AAA = MST-AAA
008500 PERFORM SEC-FILE1-SYORI
008600 IF WK-END
008700 THEN
008800 GO TO SEC-MAIN-E
008900 ELSE
008900
009000 CALL 'TESTPRG2' USING REC3
009100 END-IF
009200 ELSE
009200
009200 IF ZIK-AAA > MST-AAA
009300 PERFORM SEC-FILE2-SYORI
009400 END-IF.
009500 CALL CALLNAME USING REC4.
009600* COPY COPY5.
000100 CALL 'TESTPRG3'.
009700 SEC-MAIN-E.

PROCEDURE DIVISION USING パラメタ領域.
PROC_{SEC} SECTION.
PERFORM 初期処理_{SEC} .
PERFORM UNTIL 作業終了
PERFORM 主処理_{SEC}
END-PERFORM.
PERFORM 終了処理_{SEC} .
PROC_{出口}_{SEC} .
STOP RUN.
初期処理_{SEC} SECTION.
PERFORM オープン処理_{SEC} .
SET 作業開始 TO TRUE.
PERFORM 顧客マスタファイル処理_{SEC} .
MOVE 顧客マスタKEY TO 在庫マスタ
初期_{出口}_{SEC} .
EXIT.
オープン処理_{SEC} SECTION.
OPEN INPUT 在庫ファイル 顧客マスタ
OPEN OUTPUT 更新結果リスト .
顧客マスタファイル処理_{SEC} SECTION.
READ 顧客マスタファイル AT END MOVE
主処理_{SEC} SECTION.
IF 在庫マスタKEY = 顧客マスタKEY
PERFORM 在庫ファイル処理_{SEC}
IF 作業終了
THEN
GO TO 主_{出口}_{SEC}
ELSE
CALL '在庫データ入力' USING
END-IF
ELSE
IF 在庫マスタKEY > 顧客マス
PERFORM 顧客マスタファイル処理
END-IF.
CALL CALLNAME USING レコード4 .
CALL '売り上げデータ入力'.
主_{出口}_{SEC} .

版	変更日付	変更者	変 更 内 容	備 考

< 7 >

All Rights Reserved, Copyright©

注1) CP-PROGRAMを稼働させた日付が出力される。

図13.10 COBOL仕様書の出力例2

13.3 コンパイルリストの稼働確認

提供JCLファイルのメンバ'CPPGMDOC'を修正し、メンバ'TESTCBL'を入力として実行する。

a) ジョブ制御文の修正

稼働確認のためのジョブ制御文の修正箇所を説明する。説明以外の箇所は、“11.7ドキュメント出力用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同様である。 参照⇒11.7

正常に稼働した場合には、図13.11 ~図13.12 と同一のドキュメントが出力されるので確認されたい。ただし、日本語名標辞書を利用しない場合はヘッダ部に日本語名は出力されない。

- PARMパラメタに'CPL(PAIR,LPI=6),HANYO'を指定する。
- JSMJHSIN制御文の@MOPT制御文にMEMBER='TESTCBL',
@CMPOPT制御文にAPOST,
@FCBOPT制御文にFCB6=STD2を指定する。
- JSMJHGRP制御文のSYSTEM制御文にSEISANKN,
SUBSYS制御文にHANBAI,
JOB制御文に URIAGE,
NAME制御文に '両備SOL'を指定する。
- DD01 DD文,DD02 DD文に、提供JCLファイルを指定する。
- JIMLIB DD文に、提供日本語名標辞書(VSAM)を指定する。 参照⇒11.6
- JAPLIB DD文に、提供日本語名標辞書(VSAM)を指定する。 参照⇒11.6

コンパイルリスト	システム名		サブシステム名		ジョブ名		モジュール名		作成日	担 当	ページ
	生産管理SYS		販売SYS		売上表出力		稼働確認用モジュール		** ** ** (注1)	両備SOL	3
	ID	SEISANKN	ID	HANBAI	ID	URIAGE	ID	TESTCBL			
行番号 BID A B											
4300 RECORDING MODE IS F.											
4400 COPY COPY1 REPLACING ==()= BY ==ZIK==.											
1-100 01 ZIK-REC1.											
1-200 03 ZIK-AAA PIC X(10). 7500S,8400R,9200R . . .											
1-300 03 ZIK-BBB PIC X(20).											
4500 FD FILE2 3800D,7900R,8200R . . .											
4600 RECORDING MODE IS F.											
4700 COPY COPY1 REPLACING ==()= BY ==MST==.											
2-100 01 MST-REC1.											
2-200 03 MST-AAA PIC X(10). 7500R,8200S,8400R . . .											
2-300 03 MST-BBB PIC X(20).											
4800 FD FILE3. 3900D,8000R,10300 . . .											
4900 01 REC2.											
5000 03 FILLER PIC X(200).											
5100 WORKING-STORAGE SECTION.											
5200 COPY COPY2.											
3-100 01 REC4. 9500A											
3-200 03 MSG-CODE-1 PIC X(05).											
3-300 03 CALLNAME PIC X(08). 9500R											
5300 01 REC3. 9000A											
5400 03 MSG-CODE-1 PIC X(05).											
5500 01 WK-FLG.											
5600 03 WK-SYORI PIC X(01).											
5700 88 WK-START VALUE '0'. 7300S											
5800 88 WK-END VALUE '1'. 6500R,8600R,10000 . . .											
5900 LINKAGE SECTION.											
6000 COPY COPY3.											
4-100 01 REC6. 6200R											
4-200 03 A01 PIC 9(10).											
4-300 03 A02 PIC X(15).											
版	変更日付	変更者	変 更 内 容				備考				

< 7 >

All Rights Reserved, Copyright©

注1) CP-PROGRAMを稼働させた日付が出力される。

図13.11 コンパイルリストの出力例1

コンパイルリスト	システム名		サブシステム名		ジョブ名		モジュール名		作成日	担 当	ページ
	生産管理SYS		販売SYS		売上表出力		稼働確認用モジュール		** ** *	両備SOL	4
	ID	SEISANKN	ID	HANBAI	ID	URIAGE	ID	TESTCBL			
(注1)											
行番号 BID A B											
6100 /											
6200 PROCEDURE DIVISION USING REC6. 4-100											
6300 SEC-PROC SECTION.											
6400 PERFORM SEC-INIT-SYORI. 7100											
6500 PERFORM UNTIL WK-END 5800											
6600 1 PERFORM SEC-MAIN-SYORI 8300											
6700 END-PERFORM.											
6800 PERFORM SEC-END-SYORI. 10200											
6900 SEC-PROC-E.											
7000 STOP RUN.											
7100 SEC-INIT-SYORI SECTION. 6400P											
7200 PERFORM SEC-OPEN-SYORI. 7800											
7300 SET WK-START TO TRUE. 5700											
7400 PERFORM SEC-FILE2-SYORI. 8100											
7500 MOVE MST-AAA TO ZIK-AAA. 2-200,1-200											
7600 SEC-INIT-E.											
7700 EXIT.											
7800 SEC-OPEN-SYORI SECTION. 7200P											
7900 OPEN INPUT FILE1 FILE2. 4200,4500											
8000 OPEN OUTPUT FILE3. 4800											
8100 SEC-FILE2-SYORI SECTION. 7400P,9300P											
8200 READ FILE2 AT END MOVE HIGH-VALUE TO MST-AAA. 4500,2-200											
8300 SEC-MAIN-SYORI SECTION. 6600P											
8400 IF ZIK-AAA = MST-AAA 1-200,2-200											
8500 1 PERFORM SEC-FILE1-SYORI 9900											
8600 1 IF WK-END 5800											
8700 THEN											
8800 2 GO TO SEC-MAIN-E 9700											
8900 1 ELSE											
9000 2 CALL 'TESTPRG2' USING REC3 5300											
9100 1 END-IF											
9200 ELSE IF ZIK-AAA > MST-AAA 1-200,2-200											
9300 2 PERFORM SEC-FILE2-SYORI 8100											
9400 1 END-IF.											
9500 CALL CALLNAME USING REC4. 3-300,3-100											
9600 COPY COPY5.											
5-100 CALL 'TESTPRG3'.											
9700 SEC-MAIN-E. 8800R											
9800 EXIT.											
9900 SEC-FILE1-SYORI SECTION. 8500P											
10000 READ FILE1 AT END SET WK-END TO TRUE 4200,5800											
10100 1 MOVE HIGH-VALUE TO ZIK-AAA. 1-200											
版	変更日付	変更者	変 更 内 容				備考				

< 8 >

All Rights Reserved, Copyright ©

注1) CP-PROGRAMを稼働させた日付が出力される。

図13.12 コンパイルリストの出力例2

13.4 ソースリストの稼働確認

提供JCLファイルのメンバ'CPPGMDOC'を修正し、メンバ'TESTCBL'を入力として実行する。

a) ジョブ制御文の修正

稼働確認のためのジョブ制御文の修正箇所を説明する。説明以外の箇所は、“11.7ドキュメント出力用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同様である。 参照⇒11.7

正常に稼働した場合には、図13.13 と同一のドキュメントが出力されるので確認されたい。ただし、日本語名標辞書を利用しない場合はヘッダ部に日本語名は出力されない。

- PARMパラメタに' SRC (PAIR, LPI=6), HANYO 'を指定する。
- JSMJHSIN制御文の@MOPT制御文にMEMBER=' TESTCBL 'を指定する。
@FCBOPT制御文にFCB=STD2を指定する。
- JSMJHGRP制御文のSYSTEM制御文にSEISANKN,
SUBSYS制御文にHANBAI,
JOB制御文に URIAGE,
NAME制御文に ' 李押 太郎 'を指定する。
- DD01 DD文に、提供JCLファイルを指定する。
- JAPLIB DD文に、提供日本語名標辞書(VSAM)を指定する。 参照⇒11.6

ソースプログラムリスト	システム名		サブシステム名		ジョブ名		モジュール名		作成日	担 当	ページ
	生産管理SYS		販売SYS		売上表出力		稼働確認用モジュール		** ** *	両備SOL	3
	ID	SEISANKN	ID	HANBAI	ID	URIAGE	ID	TESTCBL	(注1)		
SEQNO 08 16 24 32 40 48 56 64 72 120 A B * * * * * * * * * * * *											
006100/ 006200 PROCEDURE DIVISION USING REC6. 006300 SEC-PROC SECTION. 006400 PERFORM SEC-INIT-SYORI. 006500 PERFORM UNTIL WK-END 006600 PERFORM SEC-MAIN-SYORI 006700 END-PERFORM. 006800 PERFORM SEC-END-SYORI. 006900 SEC-PROC-E. 007000 STOP RUN. 007100 SEC-INIT-SYORI SECTION. 007200 PERFORM SEC-OPEN-SYORI. 007300 SET WK-START TO TRUE. 007400 PERFORM SEC-FILE2-SYORI. 007500 MOVE MST-AAA TO ZIK-AAA. 007600 SEC-INIT-E. 007700 EXIT. 007800 SEC-OPEN-SYORI SECTION. 007900 OPEN INPUT FILE1 FILE2. 008000 OPEN OUTPUT FILE3. 008100 SEC-FILE2-SYORI SECTION. 008200 READ FILE2 AT END MOVE HIGH-VALUE TO MST-AAA. 008300 SEC-MAIN-SYORI SECTION. 008400 IF ZIK-AAA = MST-AAA 008500 PERFORM SEC-FILE1-SYORI 008600 IF WK-END 008700 THEN 008800 GO TO SEC-MAIN-E 008900 ELSE 009000 CALL 'TESTPRG2' USING REC3 009100 END-IF 009200 ELSE IF ZIK-AAA > MST-AAA 009300 PERFORM SEC-FILE2-SYORI 009400 END-IF. 009500 CALL CALLNAME USING REC4. 009600 COPY COPY5. 009700 SEC-MAIN-E. 009800 EXIT. 009900 SEC-FILE1-SYORI SECTION. 010000 READ FILE1 AT END SET WK-END TO TRUE 010100 MOVE HIGH-VALUE TO ZIK-AAA.											
版	変更日付	変更者	変 更 内 容				備考				

< 7 >

All Rights Reserved, Copyright ©

注1) C P - PROGRAMを稼働させた日付が出力される。

図13.13 ソースプログラムリストの出力例

13.5 チェックリストの稼働確認

提供JCLファイルのメンバ'CPPGMCHK'を修正し、メンバ'TESTCBL'を入力として実行する。

a) ジョブ制御文の修正

稼働確認のためのジョブ制御文の修正箇所を説明する。説明以外の箇所は、“11.8チェックリスト出力用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同様である。参照⇒11.7

正常に稼働した場合には、図13.14 と同一のドキュメントが出力されるので確認されたい。ただし、メンバの最終更新日付時刻に関しては、当提供媒体作成時のものが出力されている。

- － PARMパラメタに'CHECK'を指定する。
- － JSMJHSIN制御文の@MOPT制御文にMEMBER='TESTCBL'を指定する。
- － DD01 DD文に提供JCLファイルを指定する。
- － JSMJHKNR DD文に、稼働確認用管理ファイルを指定する。
- － JAPLIB DD文に、提供日本語名標辞書(VSAM)を指定する。参照⇒11.6

SIMPLIA/CP-PROGRAM			V20L20		日付 ***.***.***		時刻 ***.***.***		PAGE 1	
					(注1)		(注2)			
* * *			日付チェックリスト					* * *		
			ソースライブラリ		概 要		セクション		手続き部	
項番	モジュール名(AN)	モジュール名(N)	更新日付	更新時刻	更新日付	更新時刻	更新日付	更新時刻	更新日付	更新時刻
1.	TESTCBL	稼働確認用モジュール	08.11.28	16:02:00	08.11.28	16:02:00	08.11.28	16:02:00	08.11.28	16:02:00
(注3)										

注1) CP-PROGRAMを稼働させた日付が出力される。

注2) CP-PROGRAMを稼働させた時刻が出力される。

注3) 稼働確認を行っていない設計書の日付は空白になる。

図13.14 チェックリストの出力例

14. 日本語名標辞書の作成方法

このソフトウェアではドキュメント出力時の日本語変換（メンバ名，プログラム名，セクション名，項目名等）のために日本語名標辞書データセットを使用することができる．以下に日本語名標辞書の作成方法を示す．

14.1 日本語名標辞書データの入力

利用者は，まず112 バイトで固定長の順データセットの領域を確保し，それに以下の要領で入力を行う．

a) 1～28カラム目

変換対象となる英数字項目を設定する．

b) 29～30カラム目

'01'を設定する．

c) 31～32カラム目

'01'を設定する．

d) 33～34カラム目

変換後の日本語項目の文字数を設定する．（01～30）

e) 35～カラム目

変換後の日本語項目を設定する．ただし，シフトコード（X'28',X'38',X'29' 等）を含んではならない．

図14.1に日本語名標辞書データの入力例を示す．

----	1----	2----	3----	4----	5----	6----	7----
CP03REC			010109	OS / VL	通知領域		
CP04REC			010112	PARM	パラメタ格納領域		

注) シフトコードを除いて保存する

図14.1 日本語名標辞書データの入力例

14.2 日本語名標辞書の作成

当ソフトウェアに必要な日本語名標辞書は複数ある。表14.1に日本語名標辞書の種類を示す。

DD名	日本語名	用途	編成	アクセス形式	レコード形式	レコード長
PDF	日本語名標辞書 概要以外	セクション構造図， YAC II 仕様書， COBOL 仕様書	順編成	順アクセス形式	F,FB	120
			VSAM(KSDS)	ランダムアクセス形式		36～32760
JAPLIB JAPLIBn (n=1～4)	日本語名用辞書 概要	プログラム概要 表紙，目次， 全帳票の見出し	順編成 VSAM(KSDS) 索引編成	ランダムアクセス形式	F,FB	36～32760
JIMLIB (注1)	日本語項目変換 辞書	コンパイルリスト	順編成 VSAM(KSDS)	—	—	—

表14.1 日本語名標辞書の種類

前記11.6で稼働確認用の日本語名標辞書（VSAM編成）を作成したジョブ制御文を使用して，利用者固有の日本語名標辞書を作成した場合は，当ソフトウェアのDD名＝PDF，JAPLIBに同じデータセットを指定できる。

日本語名標辞書を順編成で作成したい場合は，図11.5のSTEP01は実行せず，STEP03のDD名＝JAPLIBに順編成の新規割り当ての指定をする。これにより，ランダムアクセス形式で順編成の日本語名標辞書が作成される。ただし，当ソフトウェアのDD名＝PDFではアクセス形式が異なるため使用できない。

注1) JIMLIBは，コンパイルリストを出力する際のコンパイルオプションに“日本語定数をJEFコードに変換して表示する(JCONST)”を指定する場合に必要なデータセットである。システム開発時のコンパイル

時に利用の日本語項目変換辞書を指定する。未使用の場合はDD文も不要である。

15. 日本語名標辞書データ変換プログラム

このプログラムはCOBOL 85 DFの順アクセス形式の日本語名標辞書（DD名＝PDFでのみ使用可能）を使用している利用者のために提供するものであり、順アクセス形式からランダムアクセス形式（ADJUSTの日本語ファイル編集ユーティリティで作成する日本語名標辞書の形式）に、日本語名標辞書の作成データを変換するものである。

提供媒体の格納番号6番でロードモジュールを、格納番号7番でジョブ制御文を提供している。

COBOL 85 DFの順アクセス形式の日本語名標辞書を使用している利用者は、このプログラムで変換した作成データから、ADJUSTの日本語ファイル編集ユーティリティでランダムアクセス形式の日本語名標辞書を再作成して、本ソフトウェアで使用されたい。

a) フォーマットの変換方法

本プログラムを使用した場合に、日本語名標辞書の作成データがどのように変換されるかを、図13.1に示し、各フィールドについて説明する。なお、本ソフトウェアで使用可能な日本語名標辞書の形式の詳細については適用マニュアルを参照されたい。

【変換前】

レコード長：120バイト

キー部	読み部	日本語データ部
30バイト	30バイト	60バイト

【変換後】

レコード長：124バイト

キー部		レコード数	有効文字数	日本語データ部	読み部
項目キー	順序番号				
28バイト	2バイト	2バイト	2バイト	60バイト	30バイト

図15.1 フォーマットの変換方法

1) キー部

－ 項目キー

変換前の30バイトのキーの後ろ2バイトを切り捨てて、28バイトの項目キーに設定される。

－ 順序番号

順序番号に'01'が設定される。

2) レコード数

レコード数に01が設定される。

3) 有効文字数

有効文字数に30が設定される。

4) 日本語データ部

変換前の日本語データ部の内容がそのまま設定される。

5) 読み部

変換前の読み部の内容がそのまま設定される。

b) 日本語名標辞書再作成のジョブフロー

本プログラムを使用して、日本語名標辞書を再作成する場合のジョブフローを図15.2に示す。

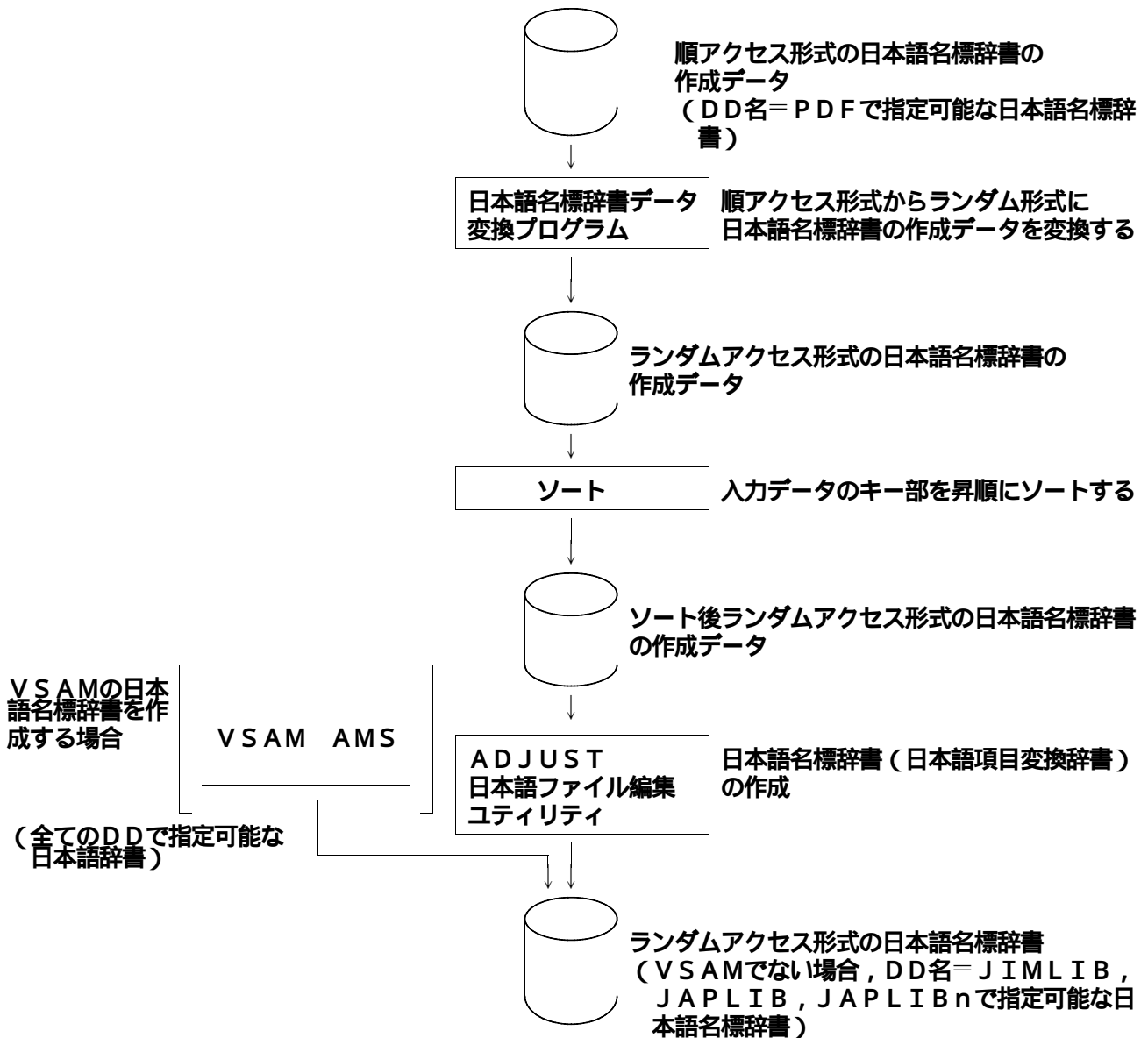


図15.2 日本語名標辞書再作成のジョブフロー

c) 実行ジョブ制御文

日本語名標辞書データ変換プログラムのジョブ制御文を図13.3に示す。下線部分は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

日本語名標辞書をVSAMで作成しない場合は、STEP01のステップは実行しなくてよい。

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
//?JOBNAME JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R
//*****
//*          日本語名標辞書 再創成
//*****
//JOBLIB DD DSN=USER01.CPPGM.WKLOAD,DISP=SHR -----①
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR -----②
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR -----
//JOB CAT DD DSN=VSMUCAT,DISP=SHR -----③
//***** 日本語名標辞書用VSAM領域の確保 *****
//STEP01 EXEC PGM=KQCAMS,REGION=960K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
DEFINE CLUSTER -
(NAME(USER01.RAN.NDICT), -
VOLUMES(DASDXX), -
INDEXED, -
SHR(3 3), -
KEYS(30 0), -
REPLICATE, -
IMBED, -
UNIQUE, -----④
RECORDSIZE(124 124), -
TRK(5,1)) -
DATA -
(NAME(USER01.RAN.NDICT.DATA) -
CONTROLINTERVALSIZE(4096)) -
INDEX -
(NAME(USER01.RAN.NDICT.IX) -
CONTROLINTERVALSIZE(2048))
/*
//***** 日本語名標辞書 入力データ変換 *****
//***** 順アクセス→ランダムアクセス *****
//STEP02 EXEC PGM=JSMJHDIC
//JSMJHJUN DD DSN=USER01.JUN.NDATA,DISP=SHR -----⑤
//JSMJHRAN DD DSN=&&RAN,DISP=(,PASS),UNIT=SYSDA,
// DCB=(RECFM=FB,LRECL=124,BLKSIZE=1240),
// SPACE=(TRK,(10,10))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//***** 日本語名標辞書ランダムデータのソート *****
//STEP03 EXEC PGM=SORT,REGION=1024K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTIN DD DSN=&&RAN,DISP=(OLD,DELETE)
//SORTOUT DD DSN=&&CPPGM,DISP=(,PASS),UNIT=SYSDA,
// SPACE=(TRK,(10,10))
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(20,10))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(20,10))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(20,10))
//SYSIN DD *
SORT FIELDS=(1,30,CH,A)
/*

```

図15.3 日本語名標辞書データコンバートプログラムのジョブ制御文例（続く）

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
//***** 日本語ファイル編集ユティリティ *****
//JAFE1 EXEC PGM=JRQJAFE
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSLIST DD DUMMY
//SYSIN DD *
- ADD OUT(JAFLIB),FIELDS=((30,A),(2,A,R),(2,A,R),(30,K),(30,A))
- FORMAT SAME
- CHGIN IN(CHGLIB)
- END
/*
//JAFLIB DD DSN=USER01.RAN.NDICT,DISP=SHR
//CHGLIB DD DSN=&&CPPGM,DISP=(OLD,DELETE)
//

```

図15.3 日本語名標辞書データコンバートプログラムのジョブ制御文例（続き）

- ① 日本語名標辞書データ変換プログラムのロードモジュールが、格納されているデータセットを指定する。
- ② COBOL 85 ライブラリ及びADJUSTのライブラリを指定する。認定ライブラリとなっている場合は、指定する必要はない。
- ③ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。
- ④ 日本語辞書をVSAMスペースに確保する場合は、この行を削除する。
- ⑤ 順アクセス形式の日本語名標辞書の作成データのデータセットを指定する。

d) 注意事項

本プログラムの使用上の注意事項を説明する。

- － キー部のデータに重複しているものがあるなど入力元の順アクセス形式の日本語名標辞書の作成データに不備があっても、本プログラムはチェック及びエラー処理を行わないので、そのまま変換される。
- － ランダムアクセス形式の日本語名標辞書の項目キーは28バイト以内でなければならないので、順アクセス形式の日本語名標辞書の作成データのキー部に29バイト以上のデータがある場合、29バイト以降が切り捨てて変換される。

16. ユーザ出口ルーチン雛形プログラム

このソフトウェアではプログラム概要書の機能説明の出力方法をユーザ固有の条件に変更できるユーザ出口ルーチンを使用することができる。提供 JCL ファイルのメンバ 'JSMJHUSR' を修正し、本ソフトウェアのロードモジュールライブラリと連結して使用する。

16.1 ユーザ出口ルーチン雛形プログラムの仕様

(1) 入出力フォーマット

表16.1入出力フォーマット

LEVL No.	項 目 名		CP-PROGRAM で設定	JSMJHUSR内 で設定	説 明
03	LK-TBL-IX	9(04) COMP			LX-TBL-IN の個数
03	LK-TBL-IN	OCCURS 200			入力データテーブル
05	LK-IN-SIKIBETU	X(01)			'P' --- プログラム 制御データ 'C' --- 注釈行データ ' ' --- データの終了
05	LK-IN-PGMID	X(08)			プログラムID
05	LK-IN-NAIYOU	X(150)			指定プログラムソースの7カラム 目 '*' のレコードの8カラム目 以降が設定されている
05	FILLER	X(11)			未使用領域
03	LK-TBL-OUT-G.				出力データ領域（初期化済）
05	LK-TBL-OUT	OCCURS 200			出力データテーブル
07	LK-OUT-SIKIBETU	X(01)			'P' --- プログラム 制御データ 'C' --- 注釈行データ ' ' --- データの終了
07	LK-OUT-PGMID	X(08)			プログラムID
07	LK-OUT-NAIYOU	X(150)			出力したい注釈行を設定する。
07	FILLER	X(11)			未使用領域

(2) 入力データテーブルの規約

- LK-TBL-IX は入力データテーブルの個数を示す。
- 入力データテーブルの先頭行はプログラム制御レコード (LK-IN-SIKIBETU='P') である。
- 先頭行以外でプログラム制御レコードが現れた場合は、以降のデータが内部プログラムの注釈行であることを示す。
- 先頭のプログラムの注釈行は最高100行設定されている。2番目以降（内部プログラム）のプログラムの注釈行は、最高50行 / 1内部プログラム設定されている。

(3) 出力データテーブルの規約

- 機能説明の不要なプログラムであっても、入力データテーブルに存在するプログラム制御レコード (LK-IN-SIKIBETU='P') は必要である。また、プログラム制御レコードの順序も入力データテーブルと同一にする。
- 先頭のプログラム制御レコードから次のプログラム制御レコードまでに注釈行データが28個を超えて設定されていても29個目以降は出力されない。

16.2 ユーザ出力ルーチンプログラムの翻訳オプションについて

当モジュールの翻訳オプションは 'RENT, SECTION(24)' を必須とする。

16.3 ユーザ出力ルーチンプログラムのリンクエディットオプションについて

当モジュールのリンクエディットオプションは 'DYNAMIC, RENT, SECTION(24)' を必須とする。

17. プログラム修正事項

前回提供のソフトウェアに対して以下のプログラム修正が行われている。

ただし、機能追加または強化に伴う修正内容を除く。

参照⇒4

項番	プログラム修正内容	修正プログラム名
1	ネットワークプリンタで表紙を印刷すると業務名がずれる。 日本語変換しない (NOHANNYO) 指定の場合。 (対応) ずれないように修正した。	JSMJH711
2	装置種別制御文のDD名を部分指定形式で指定すると、どの装置種別を指定してもDASD装置が表示される。 (対応) 指定した装置種別で表示されるように修正した。	JSMJH970
3	入力ソースライブラリが区分編成で、ディレクトリ日付情報が存在しないメンバと存在するメンバが混在するファイルを入力とした場合、日付情報のないメンバの「作成/更新日」に前メンバの「作成/更新日」が出力される。 (対応) ディレクトリ日付情報がない場合は、空白を出力するように修正した。	JSMJH820

付録1．ネットワークプリンタへの出力について

このソフトウェアは、日本語ラインプリンタ出力を基本としているが、以下の手順でネットワークプリンタへの出力も可能となる。

付録1．1 追加文字セットについて

このソフトウェアは、ドキュメントの出力時に追加文字を使用しているため、サーバへ登録する追加文字セットを提供している。本追加文字セットは必須ソフトウェアCOBOL85 DFの追加文字も含まれているため、COBOL85 DFが提供する追加文字セットのダウンロードは不要である。

— 追加文字セット名・・・・・・・・・・' J H O P '

登録されている追加文字コードの範囲：

X ' 8 0 A 1 ' ~ X ' 9 2 E D ' (必須ソフトウェア COBOL85 DFの追加文字)

X ' 9 6 B 3 ' ~ X ' 9 6 F E ' (このソフトウェアで作成した追加文字)

なお、このソフトウェアで作成した追加文字(X ' 9 6 B 3 ' ~ X ' 9 6 F E ')について、コード変更が必要な場合、あるいは、利用者独自の追加文字との統合が必要な場合は、当社技術員まで連絡する。

注) COBOL85 DFの追加文字(X ' 8 0 A 1 ' ~ X ' 9 2 E D ')は、変更できない。

付録1．2 追加文字セットのダウンロード

前記11.2でローディングした提供媒体格納番号8番のネットワークプリンタ用追加文字セット(ダウンロード用)をP L O P / Xにてサーバへダウンロードする。ダウンロード後はプリンタの電源をオフ/オンし、追加文字セットを有効にする。図付1.1にコマンド例を示す。

コマンドの詳細は、“ P L O P / X使用手引書— O S I V — ”を参照されたい。

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
=START      P L O Pマクロ名
=MODIFY      P L O Pマクロ名, LOAD, TERM=ターミナルID, CH30=JHOP
または =F    P L O Pマクロ名, LOAD, TERM=ターミナルID, CH30=JHOP
```

図付1.1 PLOP/Xコマンド例

付録1．3 コンバートジョブ制御文の修正と実行

ネットワークプリンタへ出力するためには、コンバートジョブを実行する必要がある。

コンバートジョブ制御文の修正方法を以下に説明する。11.1でローディングした提供JCLファイル中のメンバ名は' J S M J H C V T 'である。

図付1.2にコンバートジョブ制御文を示す。下線部は修正箇所を示す。なお、下線部以外にもシステムに合わせて装置名の修正を行う。

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//?JOBNAME JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R
//*****
//* CP-PROGRAM 出力帳票ネットワークプリンタ出力コンバータ
//*****
//JOB LIB DD DSN=USER01.CPPGM.LOAD,DISP=SHR ①
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR ②
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR
//STEP1 EXEC PGM=JSMJHCVT
//JSMJHNL DD UNIT=SYSDA,DSN=CPPGM.JSMJHLST, ③
// DISP=(OLD,KEEP),VOL=SER=DASDXX
//JSMJHVSP DD SYSOUT=*,DCB=RECFM=FA ④
//JSMJHPRT DD SYSOUT=* ⑤
//
```

図付1.2 コンバートジョブ制御文

- ①インストールしたロードモジュールライブラリを指定する．
- ②COBOL85ライブラリなど必要プログラムのライブラリを指定する．
- ③CP-PROGRAMで出力したCOBOLプログラム設計書（DD名＝JSMJHLST）のデータセットを指定する．
- ④設計書のネットワークプリンタ出力先を指定する．
- ⑤コンバートジョブ実行結果の出力先を指定する．

